

国指定史跡

見沼通船堀

閘門開閉実演



JR武蔵野線 東浦和駅から徒歩約15分 駐車場はありません



- 実演の途中で、市指定無形民俗文化財「見沼通船舟歌」と歌にあわせた踊りを公開します。
- 当日は、鈴木家住宅附属建物を特別公開します(通常は土日のみ)。
- 悪天候・渇水等により中止になる場合があります。当日の実施の可否は、8時より下記ホームページでお知らせいたします。

令和7年8月20日(水)

(雨天・渇水時中止)

時間 10時～・13時～(約1時間10分の実演)

場所 見沼通船堀東縁 一の関・二の関間

主催 さいたま市教育委員会 協力 見沼代用水土地改良区・見沼通船舟歌保存会

※会場周辺は日陰が少ないため、熱中症対策をお願いします。

問い合わせ先

- さいたま市教育委員会事務局 生涯学習部 文化財保護課
TEL 048-829-1725 (直通) / FAX 048-829-1989
(受付時間 8時30分～17時15分: 祝日を除く月～金)
- ホームページ <https://www.city.saitama.lg.jp/004/005/006/008/kaiheijitsuenr7.html>
- さいたまコールセンター TEL 048-835-3156 (受付時間 8時～21時: 年中無休)



4 質の高い教育を
みんなに



江戸時代のさいたま市域には「見沼」と呼ばれる広大な沼がありました。見沼は幕府の命を受けた井澤弥惣兵衛為永によって、享保 12 年（1727）から翌 13 年にかけて新田開発されることになり、この時に見沼に代わる灌漑用水として開削されたのが見沼代用水です。享保 16 年には、見沼代用水や見沼新田周辺の地域と江戸との間に舟運が開かれることになり、東西 2 本の見沼代用水とその間を流れる芝川とを結ぶ運河として見沼通船堀が開削されました。

見沼通船堀の最大の特徴は、見沼代用水と芝川との 3 メートルもの水位差を克服するための仕組みです。木製の関（閘門）により水位を調整し、船を通すため閘門式運河と呼ばれます。実演を行う見沼通船堀東縁には 2 基の関があります。

開閉実演の内容

通船堀が使用されていた当時と現在とは、芝川の水位や堀の状況が異なるため、船が関を通過して芝川と代用水を行き来することはできません。そこで、実演では、東縁一の関を開け閉めし、水位が上下する様子と、一の関と二の関の間での復元船の航行をご覧ください。



1 実演開始前の東縁一の関。見沼代用水東縁から取り入れられた水は、芝川（写真奥）へ向かって流れていく。



4 一角落を取り付ける。関枠の鳥居柱（関枠中央の太い柱）と水圧によって、角落が固定される。



2 角落（かくおとし）と呼ばれるこの板を、関枠に取り付けたり、取り外したりすることによって関の開閉を行う。



5 一の関に角落を7枚取り付け付けたところ。3の写真と比較すると、水位が上昇していることがわかる（実演開始後、約50分経過）

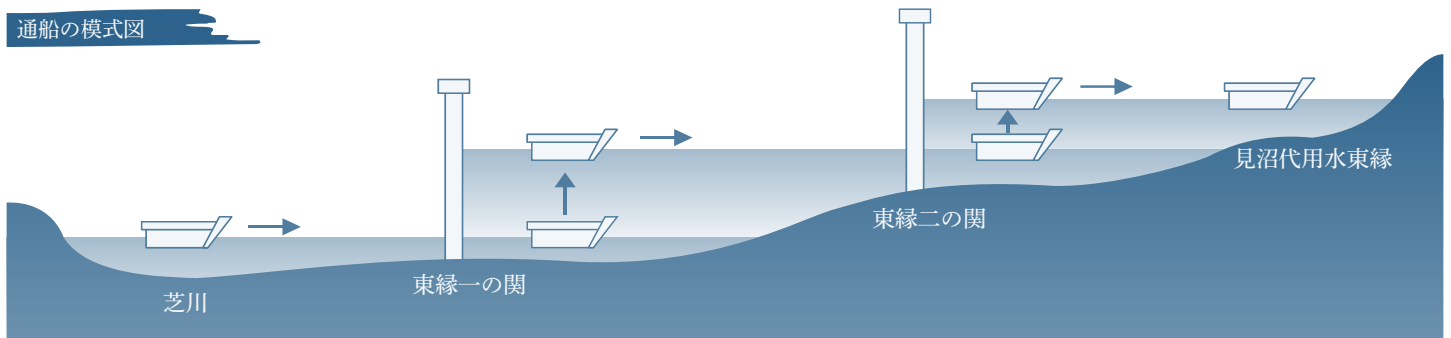


3 一の関に角落を3枚取り付け付けたところ（手前が芝川側）。関枠より上流部分の水位が徐々に上昇していく。

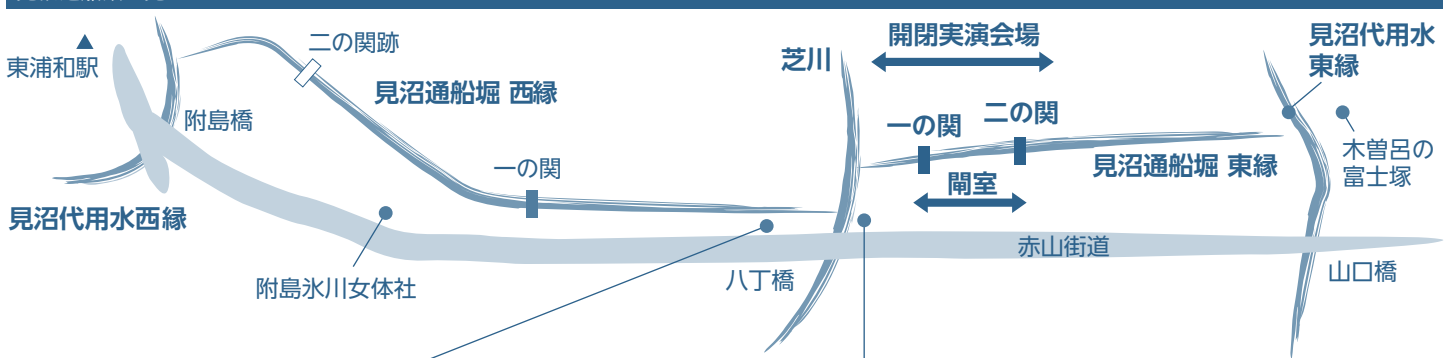


6 一の関と二の関の間の水位が上昇し、二の関を通過できるようになる（実演では船は二の関を通過しません）。

通船の模式図



見沼通船堀の見どころ



鈴木家住宅

見沼通船堀の運営に関わった鈴木家の住宅。実演当日は、附属建物を特別公開します。



水神社

見沼通船堀の船頭など地域の人々が信仰した神社。関東大震災で本殿が倒壊しましたが再建され、その記念碑が残っています。

